

# ふるさと探訪

第21回

衝上断層

しやうじやうだんそう



衝上断層は、中山川に架かる来見橋下流に露出している断層で、数千年前の地殻変動によってできた中央構造線上の逆断層（古い地層が新しい地層の上にある断層）です。

▶ 衝上断層（写真左が上流）



▶ 沿道11号  
の説明  
板

この断層は、新生代第四紀に属する雲母片岩（上流側の黒色の岩）の上に古生代後期白亜紀の和泉砂岩（下流の赤色の岩）が押し上げられたものであり、走行は北50度西、傾斜が北東40度です。市内では、市之川や黒瀬、小松町、丹原町志河川などに同様の露出が見られ、県下でも砥部衝上断層などとともに、地層学上西南日本を二分する中央構造線に沿う大断層がおこった年代を決定する重要な資料となるもので、昭和24年9月17日に県の天然記念物に指定されています。

また、来見橋の上流には、「伊予の青の洞門」と呼ばれる劈巖透水路（平成18年7月号で紹介）や紅葉の美しい中山川溪谷など一度は訪れてみたい場所です。

## ■住所

丹原町来見・湯谷口  
（中山川兩岸）

## ■駐車場

なし

